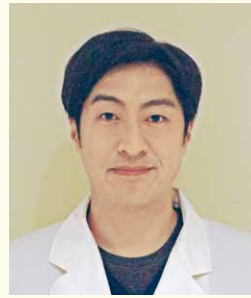


健康通信

お口の健康について〜当院における周術期等 口腔機能管理の取り組み〜



歯科口腔外科 医師
岡本 康宏

周術期等口腔機能管理

当院では、がんなどに係る全身麻酔の手術、化学療法、放射線療法や緩和ケアを受けられる患者さんに対して、患者支援センターと連携し、周術期(手術日を含めた手術前後の時期)における術後合併症の予防をする取り組みを行っています。

お口のケアが必要な患者さんには、手術前の口腔清掃やお口の中の病巣や感染源の除去、全身麻酔時の気管内挿管(呼吸管理のために息の通り道に口や鼻からチューブを挿入する)前のグラブラする歯の確認や治療を行うことにより、誤えん

性肺炎のリスクを軽減することが可能となります。

また、抗がん剤投与に伴う口腔粘膜炎の予防を積極的に行うことにより、患者さんが早期に退院できるようにお口の管理を実施しています。

お口の健康

2065年には総人口が9000万人を割り込み、高齢化率は38%台の水準になると推計されています。

超高齢社会の現代において、全身的な疾患(合併症・副作用含む)をお持ちの方も増加しています。健康寿命の



〈周術期等口腔機能管理の概要〉

延伸をはかる上で重要なことは、日頃から「かかりつけ歯科」をお持ちになり、定期的に歯科医院を受診し、適切なお口のケアを行うことにより、お口の健康を保持していくことが、全身の健康のためにも重要です。

歯周病が全身におよぼす影響

成人の約8割が歯周病を患っており、サイレントディーズ(静かなる病気と呼ばれるように、重症化するまで無症状で進行する特性もあることから、自覚症状が乏しいと言われています)。歯周病は歯の喪失に直結し、咀嚼が困難となり食事がとれなくなることや歯周病菌が糖尿病や循環器疾患に悪影響をおよぼすとの報告がされるなど、お口の健康と全身の健康との関係が指摘されています。

また、妊娠早期では、つわりなどにより、お口の中の清掃が不十分になり、環境が悪化しやすくなります。歯周病を有する妊産婦は、早産・低出生体重児出産のリスクが約7倍になるという報告もされています。

日頃からお口の健康も忘れずにチェックしましょう

当院は地域の歯科医院と緊密な病診連携を行っています。周術期等口腔機能管理は病院の中で完結するものではなく、入院前または退院後もしっかりつけ歯科を定期的を受診し、健康増進を意識していただくことが大切です。

歯周病予防は、ご自身で行う歯みがきが最も重要です。日頃から、むし歯や歯周病の専門的な治療と予防管理ならびに十分な口腔機能の保持などの良好な口腔管理を行うことにより、質の高い健康な生活を営むことが可能となります。

コロナ禍において、一時受診控えの声もささやかれましたが、医療機関はこれまで以上に院内感染対策を行っています。もし、歯科検診が滞っている方がお見えになりましたら、ぜひこの機会に、お口のチェックや予防治療のためにかかりつけ歯科を受診してみてくださいいかがでしょうか。